

第71回 国民体育大会 ～水泳競技～



日時：9月7日（水）～9月11（日）

場所：岩手県盛岡市

帯同者：中谷 拓也

【はじめに】

今回の国体帯同目的は、宮崎県代表で出場した松田 丈志選手と学生選手のコンディショニングを行いました。

【国民体育大会】

第1回は、1946年近畿で開催されました。国体は、各県の代表選手が選抜され、日本のスポーツの祭典と表現されている。

前身は、1924年から太平洋戦争中の1943年まで行われていた明治神宮競技大会。大会は、正式種目の順位を得点に置き換えて争う。

【松田 丈志選手】

メディアでも表示されていた通り、今回のレースで現役引退です。出場種目は、『400m自由形』です。

【帯同】

初日は、移動日で2日目は、公開練習日でした。リオデジャネイロオリンピックが開催されたあとの本大会は、観客も多く、一般観客の入場も満員以上の人数が押し寄せていました。国体競泳大会はオリンピックメダリスト全員出場し、その他のオリンピアンも多数出場していました。



【大会1日目】

松田選手が出場する『400m自由形』予選が午前中に行われました。出場メンバーには、リオデジャネイロオリンピックで共に銅メダルを獲得した『200m×4フリーリレー』メンバーの小堀選手、江原選手が出演していました。予選は、全体の第5位で通過。7月に三重県で行われたリオデジャネイロオリンピック直前合宿では、久世コーチが指揮をとり、3選手一緒に合同トレーニングを行っていたので、3選手で表彰台を独占して欲しいと応援していました！！



決勝のコース並びが松田選手の引退レースに相応しい並びになりました。それは、松田選手の両隣に江原選手と小堀選手でした。スタート直後、小堀選手がレースを引っ張っていくレース展開！！私は、ビデオカメラで撮影していたので、その3選手の状況しか把握出来ませんでした。リオデジャネイロオリンピックで『200m×4フリーリレー』の銅メダリストメンバーで、最後のレースに挑んだ松田選手を見ていると感慨深く感じました。結果は、第3位でした。江本院長、池田部長、野中チーフも現地で応援しました。



【夕食】

宿舎で宮崎県代表選手団、スタッフと食事を行い、選手達から

『28年間お疲れ様でした！！』とケーキと記念品贈呈がありました。



【大会2日目】

私達、トレーナー陣は、選手控え室でトレーナーブースを構えていますので、レースを控えている選手レース直後の選手のコンディショニングを行いました。私は、普段競泳選手のコンディショニングを担当させて頂いた選手は、ほとんどの方が日本代表のトップ選手の方達でしたので、トップアスリートと学生選手の身体の柔軟性、関節の可動性の違いを感じ、セルフケアの必要性について説明とセルフコンディショニングの仕方を指導させて頂きました。



【最後に】

今回、松田選手の最後のレース前夜、予選と決勝の間の時間にコンディショニングを担当させて頂きました。コンディショニングをさせて頂きながら、これで本当に最後なのか...と思いを込めて担当させて頂きました。

他にもコンディショニング担当させて頂いた学生選手皆さんの関節の可動性、身体柔軟性の左右差が著名に認める選手も多く、普段セルフケアや身体作りを行っているか？と尋ねると行っていないと答える選手がほとんどでした。理由を聞いてみると『練習前後にそういった時間が組み込まれていない。』、『仕方がわからない。』との意見もありました。宮崎県代表にはオリンピックメダリストがいるので、セルフで行えるコンディショニングの仕方を見たり、聞いたりするのも県を代表して、出場した選手の特権で、中々無いチャンスなのにと思いました。私も仕事している場面に置き換えて考えてみると、本人の意識次第でチャンスが広がったり、無くなったりと...人間『意識』の差が人生を左右する事は、1つの要素として、私は考えています。当たり前前事を当たり前に行い、プラスアルファの努力が出来るか出来ないかが、人生の分かれ道なのかもしれない...と最近、そう考える事がありました。チャンスがあればあきらめてはいけない...

国体、インターハイ、インカレなど全国大会出場を目指す選手、世界大会出場を目指す選手、世界でトップを狙う選手。目標を明確に持つか持たないか？目標達成するための備えの武器、必要な武器を持っているか？

まだまだこれから！！と国体のレース、松田選手の引退レースを応援しながら考えていました。